

平成28年10月31日、政策秘書課職員に話した内容です。

## 猫よりましじゃなあ

先日、南小学校6年生と給食の時間を使って懇談を行いました。

そのとき、児童のみなさんに、私が考えていることとして、中学、高校、大学と先ばかりを心配するのではなく、「今、生きていることが、こんなにも楽しい」と思える社会にしていきたいことや、一人ひとりがこの世に生まれてきたせっかくの命であり、かけがえのない存在で、みんなが大事なんだという話をしました。

みなさんと話しているとき、ふと自分が小学生だったときのことを思い出しました。

今から60年ほど前、私が、小学生高学年の頃の話です。そのころは、田植えの農繁期には学校が早く終わる週がありました。私も学校が終わってから、田植えをする母親の手伝いをして、腰を曲げて田植えをしている母親のそばに苗を投げたり、隅の方に苗を植えたりしました。

私の母が一人で、チャッチャと効率的に田植えをやりたい人だったら、私はかえって邪魔だったかもしれません。しかし、私が苗を投げるたびに母親は腰を伸ばして、私を見て、「猫よりましじゃなあ。」と笑ってくれました。母親が笑って喜んでくれるのが、うれしかったことを覚えています。

今思えば、母親に手伝いを喜んでもらえたこと、褒められたことで、幼いながらも「自分も役に立っているんだ。」と自己肯定感を持てたのだと思います。



山の頂上を目指す右肩上がりの時代は終わり、足元に360度広がる山の裾野に下りていく時代になりました。「早く、早く」と山を下りていっても、下りた先が正解なのか、誰にも分かりません。人類が初めて経験する人口減少への対応には、正解がなく、あの手この手を試すことができます。

山を下りていく時代となる超高齢化、人口減少社会を不安に思う人がいますが、私は心配していません。山を下りていく時代は、正解がないからこそ、多様な価値観が認められ、一人ひとりがかけがえのない存在で、みんなが大事であると思える時代になっていくはずだからです。

～市長の話を聞いて～

「猫よりましじゃなあ」と話す市長は、本当にうれしそうでした。60年近く前の記憶が、

今もこんなに人を笑顔にするんだと思いました。

市長は、多様な価値観を認めるには、「寛容な心」が必要だとも話しています。人に対して寛容な心を持つには、まず自分自身が「私にも役割がある。私は、ここに居ていいんだ」という自己肯定感を持つ必要があります。自分を認め、相手も認める。簡単なようでなかなか難しいことだと感じます。難しいことではありますが、そのことを意識して暮らしてみようと思います。